

学習・発達論	2年・前期	2単位 30時間	非常勤講師 大島 みずき
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	37011221

1. 授業のねらい・概要

学生が養護教諭第一種免許状を取得するために必要な科目である。

教員として子どもと関わる際に必要となる教育心理学・発達心理学の基礎知識を中心に学ぶことで、教える対象、教える方法について心理学の知見からより深く理解できるようになることをねらいとする。

2. 学修の到達目標

1. 2-8回で取り上げる発達に関わるキーワードについて理解でき、自分の言葉で説明を行うことができる。(D-2)
2. 9-14回で取り上げる学習に関わるキーワードについて理解でき、自分の言葉で説明を行うことができる。(D-2)
3. 教育現場の事項を授業で取り上げるトピックの側面から説明できる。(D-2)

3. 授業の進め方

講義及び演習。スライド資料と配布資料を中心に授業を進める。

質疑応答の時間を設ける。授業は基本的には対面の講義形式で行う。

【アクティブ・ラーニングの実施の有無】

各授業の最後にリアクションペーパーを用いてリフレクションを行う。

【ICT活用の有無】

ICTは活用しない

4. 授業計画（講義）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	本講義の意義と目的	講義	事前学習：シラバスを読んでおく。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島みずき
2	発達心理学（発達とは何か）	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島
3	発達心理学（発達理論）	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島
4	発達心理学（乳児期）	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島
5	発達心理学（幼児期）	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島
6	発達心理学（児童期）	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島
7	発達心理学（青年期）	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島

8	発達心理学(成人期・中年期)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島
9	教育心理学(学習 条件付)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島
10	教育心理学(学習 記憶)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島
11	教育心理学(動機づけ)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島
12	教育心理学(学習指導)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島
13	教育心理学(教育評価)	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島
14	発達障害の理解	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島
15	教育現場の中の心理学の活用	講義	事前学習：事前課題への回答。 事後学習：配布資料、講義の中でキーワードとなる言葉を自分の言葉で説明してみる。	大島
	試験とその解説			大島

事前課題：前の回の授業の最後に事前課題となる発問を行う。各自その問題について自分の意見を考えておくこと。

事後学習：学習内容を自分なりにまとめることで、授業内容における疑問点等を確認すること。

なお、キーワードとなる語は何かについては自分で考えること。

前回の疑問点について取り上げる機会を毎授業開始時に設定するので、疑問点は質問すること。

5. 成績評価の方法・基準

毎授業後のリアクションペーパーの内容(50%)、定期テスト(受験資格は授業の 3 分の 2 以上の出席をした者)の結果(50%)を評価の対象とする。合わせた評価が 60%に満たない場合は単位を認定できない。

リアクションペーパーではキーワードの理解等を3段階で評価する。評価のルーブリックについては初回の授業で提示する。定期テストでは全体的なキーワードの理解に加えの教育現場での知識の活用について問う。テストの範囲、方法については事前に授業内で説明を行う。

6. テキスト・参考文献

指定しない。毎回資料を用意する。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な内容

シラバスや参考文献をもとに今回の講義内容を理解しようとの思いを抱いて講義に臨んで欲しい。各講義における受講準備として、予習を、最低 90 分程度行って欲しい。各講義の復習を必要に応じて行って欲しい。この復習に最低 90 分程度は時間をかけて欲しい。

8. 受講上の留意事項

授業の前回数の中の 3 分の 1 以上欠席した場合は定期テストの受験資格を失う。

遅刻、途中退席、授業中の私語、授業中に授業に関連する作業以外の行動は、参加態度として評価対象とする場合がある。

9. 課題に対するフィードバックの方法

上記の各回における講義のまとめ時とその次の回における導入の時間に、学習してきた基礎的かつ基本的な知見の理解度をチェックする。定期試験の終了時に試験の解答を説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

養護教諭第一種免許状取得のための科目である。

教職の必修科目であり、修得できない場合は免許状取得不可となる。

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

該当しない。